

映画館今昔（その2）

うれし懐かし、映画館ニュース

太田 義幸 通りすがりの映画好き

このシネマ游人第9号で、ロッキーマシリーズやあぶない刑事シリーズを引き合いにして、私がまたまた映画館の話題を投稿したことを記載した。

インディ・ジョーンズシリーズは、第3作で『インディ・ジョーンズ／最後の聖戦』と謳っていたにもかかわらず、第4作はシレットと『インディ・ジョーンズ／クリスタル・スカルの王国』として、前作の最後感をなきものにしたと思ったら、まだまだハリソン・フォードを酷使して第5作目を公開しようとしている。

と言うわけで、今回は四日市の映画館に入場する際に受付で渡されていた「次回上映作品などを紹介する配付物」についての話である。またまたまた映画館の話である。くだいと思われる諸兄がおみえになると思うが我慢していたきたたく候。新型コロナウイルス感染症で我慢には慣れていると言いつつ、もう我慢できないという方々もおみえに

なるだろう。でも、常にストレスと我慢を強いられている医療従事者の方々に思いをはせて、皆さん我慢いたしまし
よう。

そんなこんなで、四日市の地に単館系の映画館が何館も存在していた頃に観た映画で、購入したパンフレットに、入場の際に受付で渡された「次回上映のご案内」（この際「映画館ニュース」と呼びましよう）がいくつか、購入したパンフレットに挟まれて残っていた。なんて物持ちがいいのだ。これはひとえに物を捨てられないという貧乏性のなせる業でしょう。

こいつが、今見るとなかなか味があるので、ちよいとご紹介いたしましよう。

○映画館名「四日市中映」

上映作品『パニック・イン・スタジアム』『シャーロック・ホームズの素敵な挑戦』

上映期間・昭和52年4月2日～5月2日

うーん、当時は2本立てでしたなあ。

「毎土曜日オールナイト（翌朝五時半迄）」と記載されている。ホントにオールナイトで朝まで上映していたのです

また、「優秀洋画の三重劇が自信を以って贈る超大作陣！」とのキャッチコピーの後に続く「優秀洋画は…文化の泉・娯楽の王者」というフレーズが大上段で素晴らしい。文化

の泉の意味がもうひとつ分からないが。さらに、優秀洋画は娯楽の王者ってことは、邦画は王者にはなれないのかあ。映画館ニュースには映画館近辺の店舗の広告が掲載されており、それがなかなか素晴らしい。喫茶店あり、洋服屋あり、飲み屋ありだが、40年以上前の映画館ニュースであり、多くの店舗が今はもう存在していないのだが、いくつかの店舗はいまだに現役として営業している。これは実に素晴らしい。文化の泉に投資をしただけのことはあったのかもしれない。

今は店舗は存在していないが、目を引く広告をご紹介します。

- ・「ピンキー」
- 「趣味の下着・紳士のオモチャ」と記載してある。うん、間違いなく大人のおもちゃ屋さんである。大人のおもちゃは紳士のオモチャなんだと感心した。
- ・キャバレー「キングスター」・クラブ「ハイネス」
- キャッチコピーが「港都四日市の社交場」。港都とは港湾都市の略のようだ。港まち四日市。映画館ニュースにもそれが謳われるとは、稲葉三右衛門も私財を投げ打って四日市港を築港したかいたったというものだ。
- ・スナック「サバニー」

くじら料理と手巻の店と載っている。いまやなかなか食することのできないくじら料理。しかも、それをウリにしているのがスナックとは実に渋い。

・ホテル「はや志」

「冷暖房完備 バス・トイレ・テレビ電話付」となっている。いまやどれも完備していなかったら、誰も利用しないだろうなと思いつながら、よくよく見たら「テレビ電話付」とな。大阪万博で未来の電話と紹介されたテレビ電話が、既に四日市のホテルに配備されていたのかあ。最先端のホテルが四日市に存在していたのだな。その名は「はや志」……。うーん「テレビ・電話付」の誤植でしような。

この三重劇場の映画館ニュースには、姉妹館である宝塚劇場の上映予定作品も案内されている。しかしながら、この宝塚劇場は一般映画を上映していたと思つたら、いきなり洋ピンを上映するというトリッキーなラインナップを提示する映画館である。なので、次回上映の「遠すぎた橋」の案内の横に『猟色ポルノスタジオ』『獣色変態の世界』『陰獣アニマル』の成人向3本立ての案内を載せるお茶目な感じとなっている。そして、さらにお茶目なことに、その宝塚劇場の案内の横の店舗の広告は「ピンキー」である。ナイス構成である。

○映画館名「宝塚劇場」

上映作品「ロッキー」「家」

上映期間・昭和52年7月23日〜

宝塚劇場のキャッチコピーは「明るい・楽しい・美しくい」。うーん、大変失礼ながら当時の宝塚劇場を思い返すと、どれも当てはまらなくような……。しかも「美しい」の送り仮名は、本来「美しい」だし。

この宝塚劇場の映画館ニュースの特筆すべきところは、紙面の端に記載されている啓發文である。その文がこれ。

「●密輸入酒追放して明るい生活」

こ、これは、どういうことだ。映画館が密輸入酒を追放する啓文をしていたなんて。というか、当時は普通に密輸入酒が四日市にも流通していたのか。そもそも密輸入酒ってどんなものなんだろう。港都だから密輸入酒が入ってきっていたのか。そうしたらキャバレー「キングスター」にも流通していたのかもしれない。この文言は映画館側が考えたのだろうか。広告主の飲み屋が掲載を依頼したのか。なぞは深まるばかりだ。いずれにしても「明るい・楽しい・美しい」宝塚劇場は密輸入酒には厳しかったのだ。

宝塚劇場の映画館ニュースの広告で一番ナイスなのは、とあるサラリーローンの広告。そこにはサラ金利用法が載

っている。「①出来る限り借金しない事、②お金は必要最小限度、③期間は短かく、④夫婦納得の上」と。サラ金業者
 だけど出来る限り借金をしないように勧めているのは実に

親切である。しかも夫婦納得の上と、家庭内の心配もしてくれている。実にありがたい。

○映画館名「シネマ」
 上映作品『ディア・ハンター』
 上映期間・昭和54年5月19日〜6月15日
 発行ナンバーが513となっている。連綿と発行していたようだ。素晴らしい。

隣の姉妹館の名称が確か「グラランド」であり、映画館ニユースにも「喫茶ニューグラランド」の広告が載っている。モーニングサービスがトースト付きコーヒー200円、ランチタイムサービスが卵入り鉄板焼きそばで250円である。うん、一度食べてみたかった。

他の広告で、5月初旬にオープンするとのことで、スイングパブ「アラビアンナイト」の広告が載っている。スイングパブってどういうパブなんやろ。飲んで歌えるパブって書いてあるけど、スイングとはそういうことか。「生演奏・カラオケシステム」とも載っている。生かカラオケかどっちやねんって感じだが、近日オープンということでカウンター嬢・ファッションガールを募集している。カウンター嬢は分かるが、ファッションガールってどういう意味やろ。

オシャレなガールってことかな。ファッショナガールが来たら雇うつもりだったのかなあ。

今回、改めて、映画館ニュースを読んでみた。当時は何も考えずに入り口で受け取っていただけだが、なかなかエッジの効いた文言があったり、とても真面目に次回映画を紹介したり、密輸入酒を追放しようとしていたりとなかなか面白かった。今でも営業している店舗が何店舗もあり、その継続性には脱帽ものである。

残念ながら、どの映画館も今はもう存在しないが、映画館ニュースは映画館と、その近隣の店舗の結びつきを物語るものであり、映画館がその地域に根ざしていたことを伝えるものでもあったのだあ。

